



© 2025 with Elizabeth

3月 29日(日)
14:00~16:00
あむねすみと 2階
参加費：無料



NHK ETV 特集

「エリザベス この世界に愛を」 チャリティー上映会

30年以上日本に住み、入国管理施設に収容されている人々を励まし、支援し続けていたるナイジェリア人のエリザベスさんの難民申請が2025年12月に不認定されました。

エリザベスさんは労働も禁止されています。難民申請不認定の取り消しのための裁判費用、彼女自身の健康状態の悪化に伴う医療費を支えるためのチャリティーイベントです。



主催：(公益社団法人)アムネスティ日本 水戸グループ
協催：with Elizabeth (エリザベスとともに)
協力：BOND～外国人労働者・難民とともに歩む会～
お問い合わせ: Tel 0299-48-2695 (徐信)

オブエザ・エリザベス・アルオリウオ さんについて

1967年ナイジェリア南東部ビアフラに生まれる。アフリカに残る伝統的慣習のFGM(女性性器切除)を逃れて14歳で家を離れる。ナイジェリア国内を転々とした後、1991年、24歳のときに来日。1998年頃から入所者への面会を始める。2019年に多田謠子反権力人権賞、2021年に日本平和学会平和賞、などを贈られている。

2023年5月、「with Elizabeth」が、彼女に「人道配慮に基づく在留特別許可」を与えるよう求める署名を呼びかけ、3万8000筆余りを法務大臣と出入国在留管理庁長官に渡した。同年12月には、エリザベスさんが暮らす茨城県牛久市の市議会で、彼女に在留特別許可を求める請願書が賛成多数で可決され、意見書のかたちで法務省と出入国在留管理庁に提出されている。(弁護士ドットコムニュース より)

with Elizabeth(エリザベスとともに) より

ビアフラ独立運動

エリザベスさんの故郷はビアフラと呼ばれる地域で、長い間ナイジェリアからの独立を求める運動があり、彼女の幼年時代に起きた紛争では、200万人もの人々が死亡、とくにビアフラ側の女性や子どもが飢餓で亡くなりました。抵抗運動は今も続いており、エリザベスさんも独立を願う民族組織の海外メンバーとして活動しています。そのため、ナイジェリアに帰ると反政府運動家として逮捕され拘禁される恐れがあります。

そのうえ宗教対立により迫害されるキリスト教徒でもあることも、エリザベスさんの身をより危険なものにしています。いま、エリザベスさんをナイジェリアに送還することは絶対に避けなければなりません。

支援を！

人権・健康・経済力などが十分ではないにせよ保障されている、自由な世界に住む私たちには、困難な状況から救いを求めてやってくる難民の支援や政府の難民政策に関心を持ち、広く世界の人々と手を携え、平和な世界に向かって行動する責任があると思います。私たちは引き続き、エリザベスさんを支援し、難民許可、在留資格を求める署名を集め、入管に提出します。それに加えてエリザベスさんの裁判費用と彼女を日夜悩ませている両膝関節症の手術費のための募金活動を行うことにしました。

ぜひ私たちと一緒に政府の非人道的難民政策に憤り、昨今急激に勢いを増した差別的で不寛容な外国人排斥の声に抗ってエリザベスさんを応援してください。そして、在留を望むエリザベスさん支援の募金運動にご協力くださいますよう、心からお願ひいたします。



この希望に満ちた結末はまだ実現していません。エリザベスは依然として難民や人道的地位を認められておらず、非常に不安定な状況にあります。

<https://www.ohchr.org/en/stories/2025/06/pathway-compassion>

